

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態	必修		

教科書	第一学習社 高等学校 現代の国語	副教材等	第一学習社「現代の国語 学習課題集」 桐原書店「セレクト漢字検定」
-----	---------------------	------	--------------------------------------

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深めている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めながら言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとめている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 定期考査は授業内容を中心に出題します。授業には集中して取り組みましょう。
- 不明な点や納得のいかないことは積極的に質問しましょう。
- 原則的に毎週の授業の中で、漢字の小テスト、速読を行います(漢字は課題の提出あり)。
- 家庭学習(授業の復習、漢字学習、テスト対策など)を推奨します。
- 考査の点数だけでなく、一生懸命努力する生徒を積極的に評価し応援します。
- 忘れ物や提出物の遅れ、授業中の集中を欠いている態度は大幅なマイナスになります。
- 毎週漢字小テストや速読があります。(評価について:漢字小テストは「現代の国語」の「知識および技能」として評価します。速読は「現代の国語」の「思考力・判断力・表現力」として評価します。)

北海道恵庭北高等学校 現代の国語				A 20時間		B 30時間		C 20時間			計 70時間											
年間指導計画（2単位）				単 元 名																		
				4月	5月	5・6月	6・7月	7・8月	8・9月	9月	10月	10月	11月	11月	12・1月	2月	2・3月					
科目の目標				る 自 方 分 法 の を 意 見 ば う 考 え を 論 述 す	き 目 取 的 ろ や う 場 に 応 じ て 情 報 を 聞	文 し 表 章 、 記 を 読 ・ 書 み 表 現 の 分 ル カ ー リ ル を す 理 い 解	よ 捉 内 え 容 、 や 文 構 成 の 要 論 旨 理 を の 把 展 握 開 し を	話 自 し 分 方 の を 立 工 場 や 相 手 に 応 じ て	る 対 叙 比 述 関 の 係 方 を 法 用 を い 把 な 握 が し ら よ 論 う じ	う 確 聞 に き ま 取 と っ め た 、 情 報 解 手 を に 整 理 え し よ 的	開 具 に 体 つ 例 い を て 多 理 用 解 し た よ 論 う 理 の 展	作 て 資 成 、 料 し 身 や よ 近 機 う な 器 製 を 品 効 の 果 説 的 明 に 書 用 を い	開 見 事 に を 実 つ 形 か い 成 ら て し 情 理 て 報 解 い を しく 抽 よ 論 出 う 理 し の 、 展 意	ン 効 を 果 し 的 よ な う プ レ ゼ ン テ ー シ ョ	味 情 し 報 て の 、 妥 意 当 見 性 文 や を 信 書 頼 こ 性 う を 吟	を 合 結 し 意 論 よ 形 の う 成 出 の し た 方 め を の 工 話 夫 し し 合 て い 、	う 伝 相 え 手 に る に 必 要 な 情 報 文 章 を 的 書 確 こ に					
学年		第1学年		担当	中川聡子・谷めぐみ																	
使用教科書				高等学校「現代の国語（第一子百社）」																		
指導領域				A 話すこと・聞くこと																		
授業時数の計				20時間																		
指導領域				B 書くこと																		
授業時数の計				30時間																		
指導領域				C 読むこと																		
授業時数の計				20時間																		
指 導 事 項																						
知識 及 び 技 能	(1)	ア	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。				○				○											
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や文章の読みと慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。				○		○						○		○					
		ウ	常用漢字の読みと慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。				○			○			○			○		○				
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、				○			○												
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。	○	○	○																
		カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。									○					○					
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	○			○					○			○	○						
		イ	個々の情報と一般化された情報との関係について理解すること。											○		○		○				
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。	○																		
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。										○									
思考力、 判 断 力、 表 現 力等	(2)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。																			
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。				○															
		ハ	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にする		○																	
		イ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。						○													
		ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。								○											
		エ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。											○								
		オ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。													○						
		カ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。																			
		ア	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。				○															
		イ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。														○					
思考力、 判 断 力、 表 現 力等	(3)	ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。	○											○							
		エ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。									○										
		オ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。																			
		カ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。																			
		ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。				○		○													
		イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自									○		○								
		教 材 名																				
		※各単元の目標について				野 啓一郎	「本 当 の 自 分」 幻 想 平	「（聞 く 技 術 入 門）」	「（書 き 方 の 基 礎 レ ッ ス	「（羅 生 門」 芥 川 龍 之 介	「（待 遇 し 方 の 工 夫）」	「（話 し 方 の 感 覚	「（間 の 東 西」 高 山 階 秀 爾	「（水 の 感 覚」 山 崎 正 和	「（相 手 に 伝 わ る 案 内 を す	「（う に 日 本 語 は 世 界 を こ の よ	「（書 を 身 近 な 製 品 の 取 扱 説 明	「（シ ー 私 作 り と プ ラ イ バ	「（ゼ ン 理 想 の 修 学 旅 行 を プ レ	「（る ）（地 域 の 魅 力 を 紹 介 す	「（合 い を 行 う の た め の 話 し	「（方 ）（実 用 的 な 手 紙 文 の 書 き
		※各単元の評価規準の設定について																				
		（１） 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」とし																				
（２） 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に「～できる」「～できる」「～できる」を付し、～できる」を付す																						
（３） 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的																						

教科	国語科	科目	言語文化	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態	必修		

教科書	高等学校 言語文化 (第一学習社)	副教材等	第一学習社 言語文化 学習課題集 桐原書店 セレクト漢字検定 三訂新版 桐原書店 解析古典文法 四訂版 演習ノート
-----	----------------------	------	---

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、深めている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つとしている。
評価の方法	☐ 考査 ☐ 発表・報告 ☐ 課題への取り組み	☐ 学習活動の状況 ☐ 考査 ☐ 発表・報告	☐ 学習活動の状況 ☐ 発表・報告 ☐ 課題への取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

○授業では先生が生徒に発問することがあります。積極的な学習態度は「主体的に学習に取り組む態度」ならびに「思考力・判断力・表現力」として評価します。 ○単元の中で書く活動があります。また学習プリントや単元ワークを行うこともあります。いずれも「思考力・判断力・表現力」として評価します。 ○定期考査は授業の内容を中心に出題されます。授業ではただ板書されたことをノートに写すのではなくしっかりと自分で考え理解しましょう。「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」として評価します。 ○毎週漢字小テストやワークシートの活動があります。（「現代の国語」と合わせて週4時間の中で実施します。）実施日などは、その都度連絡します。（評価について：漢字小テストは「現代の国語」の「知識および技能」として評価します。速読については「現代の国語」の「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」として評価します。）
--

【別添2】

北海道恵庭北高等学校 言語文化				A 10時間	B 60時間			計 70時間										
年間指導計画（2単位）				単 元 名														
				4月	4・5月	6・7月	7月	8月	9月	10月	11月	12・1月	12・1月	1・2月	2・3月	月	月	
科目の目標				れ 古	典 古	の 古	の 和	う 和	う 自	う 随	思	う も	近 俳	漢	う ま	故		
（1） 知識及び技 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を				て 典	の 典	き 典	背 歌	う 歌	自 分	随 筆	索 的	の 代	句 句	文 文	れ 事			
能 身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理				い 作	世 特	ま を	景 に	の の	の 思	文 学	な 随	の の	を 作	を 身	て 成			
（2） 思考力、 表現力、 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像した				る 品	界 有	り 読	を 詠	特 質	の 思	の 面	筆 随	見 俳	作 作	に 近	い 語			
判断力等 りする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う				こ が	に の	を む	理 ま	に つ	い を	白 さ	を 読	方 人	っ て	る と				
（3） 学びに向か 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯に				と 今	親 表	理 た	解 れ	を 効	の 面	白 さ	を 読	や の	み よ	言 し				
うか、 わたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言				を 日	し 現	め し	て い	を 果	の 面	白 さ	を 読	考 作	え 品	葉 て				
語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して				理 ま	も を	し に	よ る	的 に	を 効	の 面	を 読	え 品	方 を	の 今				
				解 で	う 理	よ 必	う 心	に 伝	果 的	を 効	を 読	方 を	を 鑑	由 日				
				し 受	解 し	う 要	情 と	え え	に 伝	を 効	を 読	方 を	を 鑑	来 ま				
				う 継	、 古	文 語	そ	よ	え	し	よ	え	し	知 親				
				が		語			よ	し		よ	ろ					
学年 第1学年 担当 谷めぐみ・中川聡子																		
使用教科書 高等学校言語文化（第一学習社）																		
指導領域 A 書くこと																		
授業時数の計 10時間																		
指導領域 B 読むこと（古：古典、近：近代以降の文章）				○近	○古	○古	○古	○近		○古	○古	○近		○古	○古			
授業時数の計 古典：42時間 近代以降の文章：18時間				2	4	6	6	8		6	6	8		7	7			
指 導 事 項																		
知識及び技能	（1）	ア	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える動きがあることを理解すること。	○				○	○									
		イ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。															
		ウ	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語		○					○	○			○	○			
		エ	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。								○							
		オ	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。									○	○					
	（2）	ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。					○	○			○			○			
		イ	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。			○	○											
		ウ	古典の世界に親しむために、古典と読むための必要な文脈のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。		○	○	○			○	○			○				
		エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながり		○					○								
		オ	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。															
思考力・表現力・判断力等	イ	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。	○															
	ア	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。						○			○							
	イ	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。						○			○							
	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。		○	○	○			○	○	○		○	○				
	イ	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。		○	○	○			○	○	○		○	○				
思考力・表現力・判断力等	ウ	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。								○								
	エ	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。	○		○	○	○											
	オ	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこ																
※各単元の目標について																		
（1） 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項のすまを「～でき」（2） 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他																		
※各単元の評価規準の設定について																		
（1） 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～し																		
（2） 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明																		
（3） 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動																		
				古 典 から 受け 継 が れ る 話 の 由 来 を 調 べ	「 児 の そ ら 寝 」 （ 宇 治 拾 遺 物 語 ）	「 芥 川 」 （ 伊 勢 物 語 ）	「 あ づ さ 弓 」 （ 伊 勢 物 語 ）	そ の 子 二 十	（ 俵 万 智 ）	古 典 の 和 歌 を 現 代 の 言 葉 で 書 き 換 え る	「 春 は 、 あ け ぼ の 」 （ 枕 草 子 ）	草 ） 「 あ る 人 、 弓 射 る こ と 習 ふ に 」 （ 徒 然	こ こ ろ の 帆	折 句 を 用 い て 短 歌 を 作 る	漢 文 入 門	故 事 成 語		